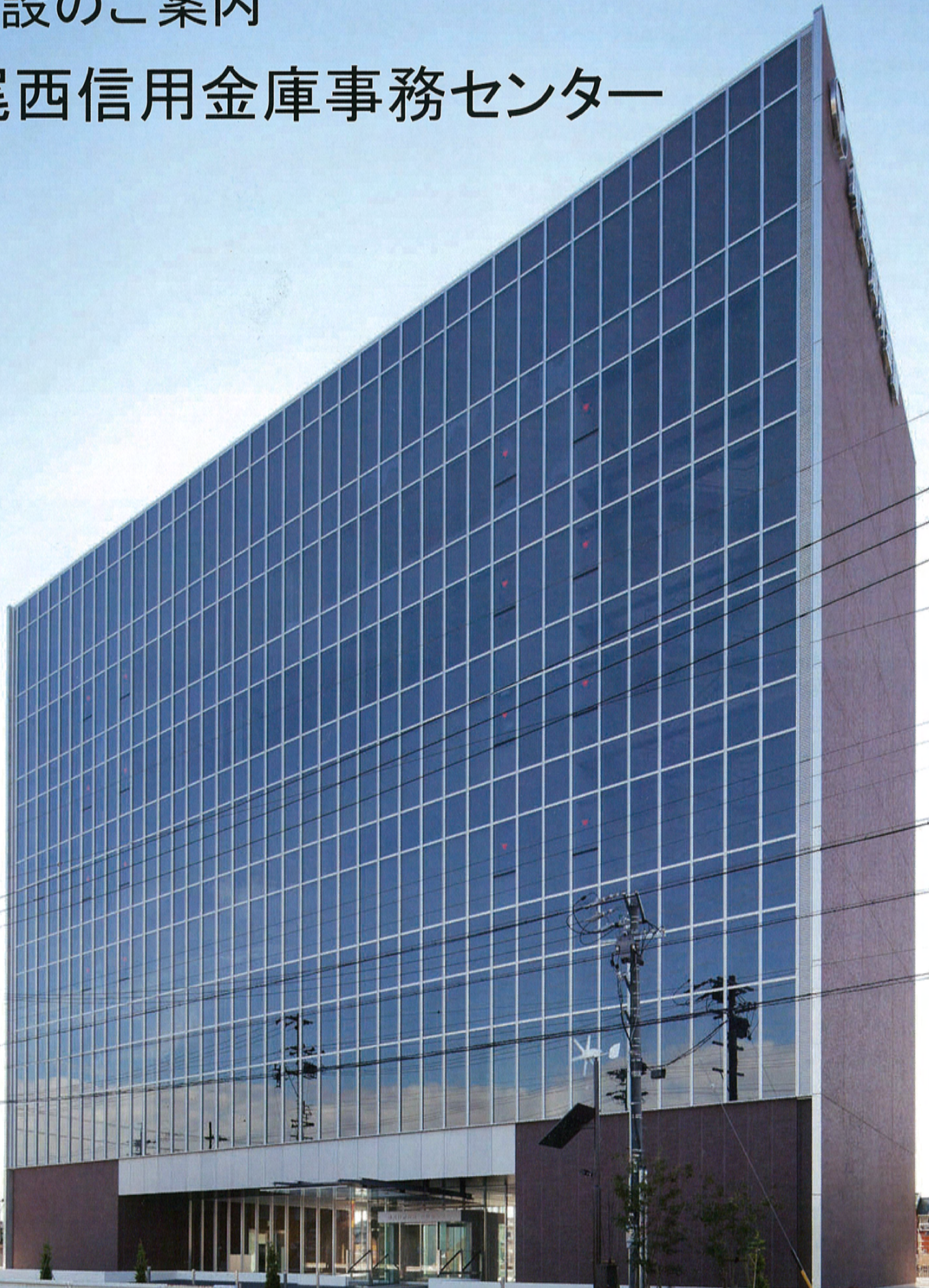


施設のご案内

尾西信用金庫事務センター



設計の基本的な考え方

尾西信用金庫事務センター新築工事の設計にあたり、「時代を超え都市資産として行き続ける建築づくり」を念頭に、ロングライフ(長寿命)、ルーズフィット(融通性)、ローエネルギー(省エネルギー)、BCP(地震、水害、火災に対する減災と事業の継続を可能にする)を兼ね備えた事務センターを創造することを基本方針としました。

デザインの基本方針は、築35年の本館に隣接し、地元経済を支えてきた尾西信用金庫に相応しい外観となるよう、「歴史と伝統の継承…未来への飛躍」～過去と未来の融合～と定め、金融機関としてのイメージを大切に、本館と調和し街を豊かにする品格あるデザインとしています。

1. 空間計画

市民サービスおよび市民利用

◆1階と2階には、市民の皆様が利用できるオープンスペースとして、開放型ギャラリーとコミュニティホールを配置し、市民の皆様どうし、市民と信用金庫が交流を育む場となります。

また、オープンスペースは地震時の避難施設、防災拠点としての機能を合わせ持っています。

利便性の向上と柔軟性の確保

◆事務室は見通しが良く自由度の高い大空間とし、将来の変化に柔軟な対応ができる計画としています。

2. 地震対策(BCP)

- ◆想定される大地震に対し、事務センター全体の安全性を高める基礎免震システムを採用。
- ◆停電対策として、自家発電機に使用する備蓄燃料を20日間分確保。又、屋上に設置した太陽光発電パネルにより、電気の供給をサポート。
- ◆断水対策として、井戸水、雨水を雑用水に利用できるシステムを採用。
- ◆汚水排水のインフラ配管の破損時の対策として、50人×2ヶ月分の汚水貯留槽を設置。
- ◆エレベーターによる物流対応の為、自家発電機から電気を供給するシステムを採用。
- ◆電気自動車の利用の為、自家発電機から電気を供給する充電器を屋外駐車場に設置。
- ◆火災時の対策として、西側外壁を窓の無いコンクリート製の外壁として延焼の防止を図る。
- ◆水害対策として、日光川の氾濫時には、施設内への水害を防止する為、建物の外周部に想定水位より40cm高い防潮堤を設置。



1階 ギャラリー



2階 コミュニティホール



3階 事務室



航空写真

3. バリアフリー・ユニバーサルデザイン

誰にでも優しく使いやすい事務センター

- ◆ 駐車場には車椅子利用者用駐車場を設置し、1階ギャラリーには多目的トイレ、エレベーターは車椅子対応とし、段差の無い床面としています。

4. 環境配慮

環境オフィスの創造

- ◆ 建物の南面にはLow-E複層ガラス、北と東面には熱線反射ガラスを採用して環境負荷を低減。
- ◆ 電力消費抑制の為、屋上にフラットパネル太陽光発電システムを配置し、照明器具にはLED+昼光・人感センサーを導入。
- ◆ コミュニティホールの空調には、地中に深さ100mの採熱パイプを6本埋設し地中熱ヒートポンプにより冷温水を床放射冷暖房システムへ供給し、輻射併用床吹き出し空調システムを採用。
ギャラリーと事務エリアには快適性、省エネ性が高い床吹き出し方式を採用。
- ◆ 水資源の有効利用を図る為、井戸水や雨水をトイレ洗浄水などに利用するシステムを採用。
- ◆ 受水槽には、CO2排出をほとんど行わない愛知県産材の木製受水槽を採用し、来館者へ環境への啓蒙を行う。
- ◆ 駐車場には緑化を施し、道路面による温度上昇、照り返しの抑制などの環境負荷を削減。
- ◆ 外灯には蓄電池組み込みの自立独立型LED照明灯を設置し、自然エネルギーを利用したハイブリッド照明を採用。
- ◆ 国土交通省の建設物省CO2先導事業のプロジェクトに採択。事務センター新築、本館の空調改修、使用エネルギーデータの蓄積と運用の改善によりエネルギー管理を行い、省CO2の取組みを継続的に進めます。
- ◆ 1階ギャラリーには、太陽光発電パネルの発電量や省CO2の為の具体的な施策が分かるディスプレイを設置して市民の皆様へ公開します。



玄関・車寄せ



太陽光発電パネル



木製受水槽



緑化駐車場



ハイブリッド外灯



電気自動車対応 充電器

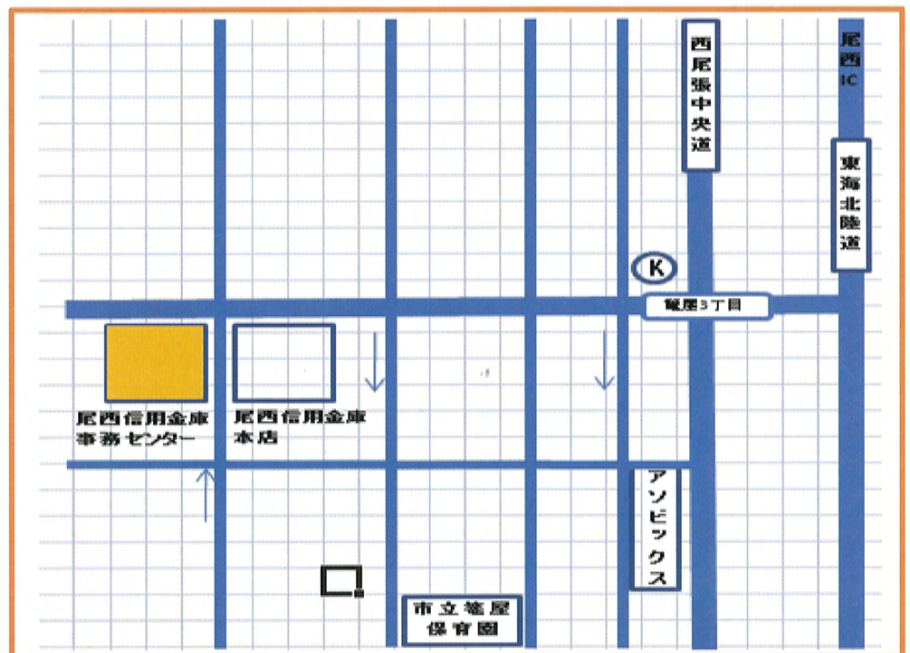


南面外観

施設概要

主要用途	事務所
建築面積	662.33㎡
延床面積	3458.65㎡
構造	鉄骨造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造
	基礎免震構造
階数	地上6階 PHF1階
最高高さ	32.1m

案内図



尾西信用金庫事務センター

〒494-8611 愛知県一宮市籠屋一丁目5番6号

TEL 0586-45-1141 <http://www.bi-shin.co.jp/>